

## 宝暦治水三之手出張小屋跡

- 所在地                      大藪939の9                      168㎡（52坪）
- 指定年月日                町指定 史跡 平成10年3月2日
- 時代                        江戸時代 宝暦4～5年

薩摩藩による宝暦4～5年（1754～1755）のお手伝い普請は、一之手から四之手まで、大きく四つの工区に分けて進められた。墨俣輪中より本阿弥輪中までが三之手の工区で出張小屋は大藪の庄屋渡辺勘右衛門の屋敷に置かれた。

「お手伝い御普請御用留」に「坪数1515坪（約5000㎡）出小屋一ヶ所、これは勘右衛門屋敷并居宅添屋共、御手伝方役人相対を以借請申候」とある。

現在、その一区画（約170㎡）が町に寄進され、戦没者の墓地となっている。

大樽川洗堰など薩摩藩による宝暦治水工事は、輪之内地方の治水に大きな恩恵をもたらした。しかも、その工事に従事した薩摩藩士の拠点である「三之手出張小屋」の跡地は歴史的にも貴重である



三之手出張小屋跡